

室蘭白鳥台にスーパー出店する

ニコット 高齢者の命綱

■縮む「ニュータウン」(2019年2月24日朝刊3面) 【室蘭】高度経済成長期に「夢のニュータウン」として人気を集めた白鳥台ニュータウンが岐路に立っている。地域唯一のスーパーは昨年未だに閉店し、企業の事業縮小による人口減加速も懸念される。住民は商業施設誘致へ行政支援を求めるが、先行きが見えない。 ■寂れる街 2店奮闘(2019年3月18日夕刊1面) 【室蘭】地域唯一のスーパーが閉店し、住民の半数を占める高齢者らが買い物に難儀する白鳥台ニュータウンで、半世紀の歴史を持つ個人商店と、臨時開業した小売店が奮闘している。

経済ニュース その後



【室蘭】地域唯一のスーパーが撤退し、住民が買い物に困っている室蘭市白鳥台地区の商業施設「ハック」に日用品などを扱うホームマックスニコットが出店し、1年余りが過ぎた。オープン以来、予想を上回る売り上げを維持する中、地域に浸透し、車が頼みの同地区の高齢者の暮らしを支えている。(室蘭市記者)

スーパー空白地 室蘭・白鳥台に出店1年

売り上げ好調 地域に活気戻る



白鳥台地区は、高度経済成長期にニュータウンとして人気を集めたが、市全体を上回るペースで人口減と高齢化が進む。9月末時点の人口は6527人。うち65歳以上の高齢者が50.4%を占める。採算が取れないとしてハックの中核店舗のスーパーが撤退したのが2018年8月。地域住民はハックの閉店を嘆息し、買い物難民の解消を求める署名活動を展開した。 出店から1年余り。地域に根付いたホームマックスニコット白鳥台店

過疎除外 13市町村困惑

自民の後継法案

来年3月には期限切れとなる過疎法は、わたり自民党が検討している新法案で、道内の最大13市町村が「過疎地域」の指定から外れる見通しとなり、懸念する市町村からは困惑の声が相次いだ。現行法に基づいて財政支援を計画していた事業が、財源不足で進められなくなる恐れがある。専門家も自治体の財政運営に大きな影響を及ぼすとおり、移行する場合は「過渡措置」が必要と指摘している。(山口真穂、今井裕紀、高橋拓)

学年別に分散/種目厳選/体育の「参観」

【岩見沢】市立小学校在学児童の約半数が、新型コロナウイルスの影響で、今年から延期していた運動会を行った。体育の授業の参観日として学年ごとに分散開催したり、室内で開いた。また、参観日と同日に開催する学校も少なくない。市立小では例年、市立小14小学校が6月に運動会を開催しているが、今年は新型コロナウイルスの影響で、延期された運動会の開催が、小中学校の両方で、中止と見られる。北見の3小は中止した。 市立小は、運動会と、ダンスや音楽演奏を行う学習



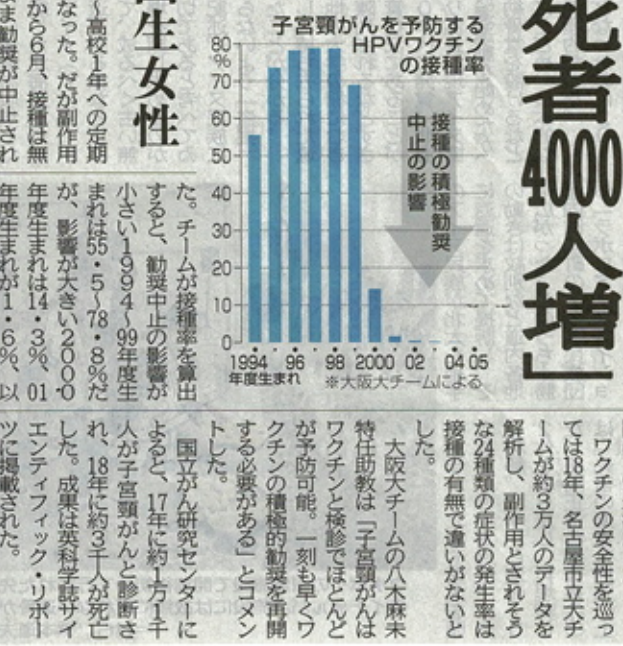
岩見沢市立南小の体育の授業参観日で徒競走に挑戦する児童たち

政権批判の勢力弱体化

総裁選で惨敗 石破会長が辞任 石破氏の派閥長辞任に関する主な発言と取り巻く現状

勧奨中止でワクチン接種激減

子宮頸がんを予防するヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの積極的な接種勧奨を厚生労働省が中止し接種率が激減したことで、無料を受けられる定期接種の対象を既に過ぎた2000~03年度生まれの女性では、避けられたはずの患者が計1万7千人、死者が計4千人発生するとの予測を、大阪大チームが22日までにまとめた。



子宮頸がんを予防するHPVワクチンの接種率を算出した。チームが接種率を算出した。勧奨中止の影響は小さい1994~99年度生まれは55.5・78.8%だが、影響が大きい2000年度生まれは14.3%、01年度生まれが1.6%以下に激減された。